

府中市子ども家庭支援センター事業進捗状況及び自己評価

- 1 児童虐待対策事業（要保護児童対策地域協議会）
- 2 児童虐待防止普及啓発等事業
- 3 総合相談事業
- 4 親支援事業
- 5 育児支援家庭訪問事業
- 6 子ども家庭サービス事業
- 7 リフレッシュ保育事業
- 8 交流ひろば事業
- 9 ファミリー・サポート・センター事業

1 児童虐待対策事業（要保護児童対策地域協議会）

施策の目指す姿

○通告義務をはじめとする児童虐待に関する知識の普及啓発を進め、地域との連携により、育児不安の軽減や児童虐待の未然防止・早期発見に努めます。
 ○妊娠中からの支援や児童虐待への対応については、関係機関とのネットワークをさらに充実させて、緊密に連携して対応します。また、養育者への支援とともに被虐待児童への支援についても、関係機関とのネットワークを活用し、子どもが地域で安定した生活を送れるようにします。

《取組内容（H29～H33）》

○妊娠期からの切れ目のない支援を効果的に行うため、子育て世代包括支援センターの開設準備から開設に向け、医療・保健分野との連携をさらに充実。
 ○養育者の支援とともに被虐待児童への支援について、関係機関で役割分担し、被虐待児童へ安心できる養育環境の提供を行い、心身のケアを充実。

《進行管理》

| 区分 | H29 | H30 | H31 | H32 | H33 |
|----|---|--|---|-----|-----|
| 目標 | | 要保護児童対策地域協議会 代表者会議 6/28（保健センターとの連携） 要保護児童対策地域協議会 実務者会議兼進行管理分科会 ・乳幼児会 7/27 ・児童生徒会 10/26 ・全体会 1/18 児童相談所との進行管理 4回 支援プラン会議 月1回 個別ケース会議 事例検討会 | 要保護児童対策地域協議会 代表者会議 要保護児童対策地域協議会 実務者会議兼児童虐待相談 事例進行管理会議 ・乳幼児会 7/26予定 ・児童生徒会 10/25予定 ・全体会 1/17予定 児童相談所との進行管理 4回 支援プラン会議 月1回 個別ケース会議 事例検討会 | | |
| 実績 | 要保護児童対策地域協議会 代表者会議 6/29実施（切れ目のない支援） 要保護児童対策地域協議会 実務者会議 ・乳幼児会（特定妊婦） ・児童生徒会（通告事例） ・全体会（就学予定事例） 児童相談所との進行管理 4回 虐待予分科会 月1回 個別ケース会議 143回 事例検討会 17回 学校等からの定期情報提供 | 要保護児童対策地域協議会 代表者会議 1回 要保護児童対策地域協議会 実務者会議兼児童虐待相談 事例進行管理会議 ・乳幼児会 1回 ・児童生徒会 1回 ・全体会 1回 児童相談所との児童虐待相 談進行管理会議 4回 支援プラン会議 月1回 個別ケース検討会議 延119回 事例検討会 延21回 | | | |

《平成30年度の取組に対する評価》

| 評価 | コメント |
|----|--|
| 3 | ○計画どおり、会議を開催した。 ○平成30年4月より健康推進課母子保健係と子ども家庭支援センターが連携して実施する子育て世代包括支援センターを開設し、切れ目のない支援の実施を図るため月1回の支援プラン会議を開催し連携強化を図った。 |

評価基準

0：事業に着手することができなかった。
 1：大幅な変更や遅れがあり、目標を達成することができなかった。
 2：やや変更はあったが概ね目標を達成することができた。
 3：目標を達成することができた。
 4：目標を超える成果を得ることができた。

《今後の展開》

○児童虐待については、他県で死亡事例が発生するなど重篤な事例が増加し、本市でも対応件数が増加の一途をたどっているため、内部研修会や事例検討会の実施を通して職員の専門性の強化を図っていきたい。

《その他意見等》

2 児童虐待防止普及啓発事業

施策の目指す姿

- 深刻化する児童虐待に対応するため、職員の質的向上及び関係機関の意識向上を図ります。
- 子育てひろば交流会等を通して、市民への啓発活動を実施し、子育て家庭の孤立化を防止する。

《取組内容 (H29～H33)》

- 関係機関と情報を共有し、意識向上を図るため、関係機関向け研修を開催。
- 地域の子育てひろばと協働して子育てひろば交流会等を開催し、地域の子育てひろばを周知。また、児童虐待防止や養育家庭に関する市民への啓発活動を実施。
- 児童虐待への通告等の対応や、児童虐待防止に向けた対応が行えるように児童虐待防止マニュアルを作成し、関係機関への配付。
- 子育てほけっとを訪問時に配付。
- 子どもが自ら相談できるように小学1年生、中学1年生に電話相談カードを配付し、相談窓口を普及啓発。

《進行管理》

| 区分 | H29 | H30 | H31 | H32 | H33 |
|----|---|---|--|-----|-----|
| 目標 | | 関係機関研修会 ・初任者 1回 ・レベルアップ 1回 子育て支援講演会 1回 子育てひろば交流会 1回 児童虐待防止月間中に児童虐待防止マニュアル、子育てほけっとを小学校、中学校、幼稚園、保育所に5部ずつ配付 いきプラまつり、福祉まつりでの普及啓発 子育てほけっとのホームページ掲載 | 関係機関向け研修会 ・初任者 1回 ・レベルアップ 1回 子育て支援講演会 1回 子育てひろば交流会 1回 児童虐待防止マニュアル、子育てほけっとの学校、保育所等への配付 福祉まつり・商工まつりでの普及啓発 市庁舎入口周辺への懸垂幕の掲出 | | |
| 実績 | 関係機関研修会 ・初任者 1回98名 ・レベルアップ 1回84名 子育て支援講演会 1回93名 子育てひろば交流会 1回347組 児童虐待防止マニュアルダイジェスト版、子育てほけっとの学校、保育所等への配付 いきプラまつり、ル・シーニュオープニングセレモニー、福祉まつりでの普及啓発 | 関係機関向け研修会 ・初任者 1回137名 ・レベルアップ 1回130名 子育て支援講演会 1回57名 子育てひろば交流会 1回394組 児童虐待防止マニュアルダイジェスト版、子育てほけっとの学校、保育所等への配付 いきプラまつり、福祉まつりでの普及啓発 子育てほけっとのホームページ掲載 | | | |

《平成30年度の取組に対する評価》

| 評価 | コメント |
|----|--|
| 3 | <ul style="list-style-type: none"> ○計画どおり、講演会や研修会を実施した。関係機関向け研修、子育てひろば交流会には昨年度を上回る参加があり、関係者間のさらなる情報共有や意識向上が図られた。 ○児童虐待防止マニュアルについては、法改正等を踏まえて内容の見直しを進めた。 ○子育てほけっとのホームページ掲載を開始した。 |

評価基準

- 0：事業に着手することができなかった。
- 1：大幅な変更や遅れがあり、目標を達成することができなかった。
- 2：やや変更はあったが概ね目標を達成することができた。
- 3：目標を達成することができた。
- 4：目標を超える成果を得ることができた。

《今後の展開》

- 児童虐待防止には関係機関との緊密な連携が欠かせないため、関係機関向け研修会の開催や「児童虐待防止マニュアルの活用を図る等の取組を継続実施していく。

【継続】

- 子育てほけっとの継続的な周知活動を実施する。
 - ・外国人の保護者も増えているため、英語版も検討。
- 電話相談カードの継続的な普及啓発及びポスター制作を検討する。

《その他意見等》

3 総合相談事業

施策の目指す姿

○妊娠中の保護者から18歳までの子どもがいる家庭と、子ども本人を対象に、育児の相談、児童虐待に関する相談など、子育て家庭のあらゆる相談に対応し、必要な支援の検討と必要なサービスの利用をコーディネートすることで、問題の解決や家族の自立を促し安心した子育てができるようにします。

《取組内容 (H29～H33)》

○子ども家庭支援センター「たち」「しらとり」において、子育てに関する総合相談や児童虐待、養護等への対応を行う。
○子育て世代包括支援センター事業を健康推進課と連携して実施し、妊娠期からの切れ目ない相談支援を行う。

《進行管理》

| 区分 | H29 | H30 | H31 | H32 | H33 |
|----|--|--|--|-----|-----|
| 目標 | | 育児相談 児童虐待相談 養育困難相談 育成相談 不登校 障害等 保健相談 非行等 その他 電話、来所、訪問、メール等 等で対応。 必要時間関係機関との連携を図る。 | 育児相談 児童虐待相談 養育困難相談 育成相談 不登校 障害等 保健相談 非行等 その他 電話、来所、訪問、メール等 等で対応。 必要時間関係機関との連携を図る。 | | |
| 実績 | 育児相談 176件 児童虐待相談 184件 養育困難相談 351件 育成相談 67件 不登校 19件 障害等 18件 保健相談 107件 非行等 1件 その他 52件 (合計 975件) 電話、来所、訪問、メール等 等で対応。 必要時間関係機関との連携を図る。 | 育児相談 190件 児童虐待相談 281件 養育困難相談 458件 育成相談 74件 不登校 26件 障害等 14件 保健相談 68件 非行等 3件 その他 57件 (合計 1171件) 電話、来所、訪問、メール等 等で対応。 必要時間関係機関との連携を図る。 | | | |

《平成30年度の取組に対する評価》

| 評価 | コメント |
|----|--|
| 3 | ○新規相談受理件数について、前年度から約2割増加して1171件あった。他県での児童虐待の死亡事例発生等に伴い、児童虐待や養育困難に関する通告・相談が大幅に増加した。 ○利用者支援地域連携会議を開催し、課題検討や情報共有を通じて関係機関の連携強化を図った。 |

評価基準

- 0：事業に着手することができなかった。
 1：大幅な変更や遅れがあり、目標を達成することができなかった。
 2：やや変更はあったが概ね目標を達成することができた。
 3：目標を達成することができた。
 4：目標を超える成果を得ることができた。

《今後の展開》

○子ども家庭支援センター「たち」を中心として、電話、面接、メール等で、子どもと家庭の総合相談に対応する。
 ○支援を必要とする家庭に対し相談員や専門訪問員が家庭訪問を実施し、適宜関係機関との情報共有を行う等、必要な支援につなげていく。

《その他意見等》

4 親支援事業

施策の目指す姿

○グループ活動を通じて子育て家庭の孤立化を防止するとともに、育児に関する負担や不安を軽減し、児童虐待の発生予防や重篤化防止を図ります。

《取組内容 (H29～H33)》

○育児不安が強く支援の必要な保護者や、軽度の虐待をしている保護者を支援するため、2グループ（ブアマナ、フルール）を月2回ずつ実施。
○子どもとの関わり方に悩む保護者を対象として、子どもとの効果的な関わり方を学ぶ全7回のグループ（ペアレントトレーニング）を実施。

| 区分 | H29 | H30 | H31 | H32 | H33 |
|----|--|--|--|-----|-----|
| 目標 | | ブアマナ、フルール、ペアレントトレーニングを、参加状況を見ながら、H29年度の実施回数維持し、定期的の実施。 | ブアマナ、フルールを年間を通じて月2回実施。ペアレントトレーニングを9月～2月に全7回実施。 | | |
| 実績 | ブアマナ 23回延51人 フルール 23回延80人 ペアレントトレーニング 7回延39人 | ブアマナ 22回延52人 フルール 22回延67人 ペアレントトレーニング 7回延30人 | | | |

《平成30年度の取組に対する評価》

| 評価 | コメント |
|----|-----------------------------|
| 3 | ○前年度から引き続き、計画どおり各グループを実施した。 |

評価基準

- 0：事業に着手することができなかった。
1：大幅な変更や遅れがあり、目標を達成することができなかった。
2：やや変更はあったが概ね目標を達成することができた。
3：目標を達成することができた。
4：目標を超える成果を得ることができた。

《今後の展開》

○ブアマナ、フルールの参加者の状況を見ながら、グループ運営の見直しも含めて、効果的な親支援の方法を検討する。

《その他意見等》

【継続】

- ブアマナとフルールのグループの区別が難しくなっている。
○平日の午前中に実施しているため、働いている保護者が参加しづらく、参加が必要な保護者につながらない現状がある。
○グループのみの支援では十分ではなく、個別相談や育児支援家庭訪問等複数の支援が必要なケースが増えている。

5 育児支援家庭訪問事業

施策の目指す姿

○強い育児不安や悩みを抱える家庭に対し、支援内容に応じた職種や資格を有する訪問員を定期的に派遣し、育児支援や家事援助などを行いながら児童虐待の防止を図り、子どもが安心して生活ができるようにします。

《取組内容（H29～H33）》

○専門的な資格を有する者や、児童心理等を専攻している学生を訪問員として登録。
○NPO法人にも委託し、自宅への訪問や子ども家庭支援センターへの来所など、家庭のニーズに合わせた支援を実施。

《進行管理》

| 区分 | H29 | H30 | H31 | H32 | H33 |
|----|---|--|-----------------------------|-----|-----|
| 目標 | | 訪問員登録者数 35人 委託NPO法人数 2団体 | 訪問員登録者数 35人 NPO法人委託数 2団体 | | |
| 実績 | 訪問員登録者数 34人 委託NPO法人数 2団体 訪問対象者数 73世帯 延べ訪問回数 953回 | 訪問員登録者数 34人 NPO法人委託数 2団体 訪問対象者数 80世帯 延べ訪問回数 1283回 | | | |

《平成30年度の取組に対する評価》

| 評価 | コメント |
|----|---|
| 3 | ○相談件数の増加に伴い、支援が必要な家庭も増加したため、支援の導入が大幅に増加した。 ○育児支援家庭訪問の導入を通じて、養育困難家庭の負担を軽減し、児童虐待の予防や重篤化防止を図った。 |

評価基準

0：事業に着手することができなかった。
1：大幅な変更や遅れがあり、目標を達成することができなかった。
2：やや変更はあったが概ね目標を達成することができた。
3：目標を達成することができた。
4：目標を超える成果を得ることができた。

《今後の展開》

○相談件数の増加とともにサービス導入が必要な家庭も増加していくが、サービス導入に当たっては、他のサービスの導入状況も考慮し、必要な家庭に必要なサービスが行き届くよう調整していく。

《その他意見等》

【継続】
○訪問可能な時間と利用希望時間のマッチングが難しい。
○学校卒業とともに活動終了となる学生相談員の継続的確保が課題である。

6 子ども家庭サービス事業

施策の目指す姿

○多様な保育体制により、子育て家庭を支援するとともに、子どもの健全な育成と親の負担軽減を図ります。

《取組内容（H29～H33）》

- ショートステイ事業：保護者が入院、出産等の理由で子どもの養育が一時的に困難なときに、施設において子どもを泊りがけで預かる。
- トワイライトステイ事業：共働きや残業等で保護者の帰宅が遅い家庭の子どもを夜間に施設で預かる。
- 母児ショートステイ・デイケア事業：出産や子育てで育児不安が強い母児に対し、施設への宿泊や通所を通してケアを行う。

《進行管理》

| 区分 | H29 | H30 | H31 | H32 | H33 |
|----|---|---|--------------------------------------|-----|-----|
| 目標 | | ショートステイ事業 トワイライトステイ事業 母児デイケア事業 | ショートステイ事業 トワイライトステイ事業 母児デイケア事業 | | |
| 実績 | ショートステイ事業 139人 トワイライトステイ事業 7575人 母児デイケア事業 0人 | ショートステイ事業 119人 トワイライトステイ事業 7341人 母児デイケア事業 0人 | | | |

《平成30年度の取組に対する評価》

| 評価 | コメント |
|----|---|
| 3 | <ul style="list-style-type: none"> ○ショートステイ事業について、計画どおり3か所で実施した。しらとりにおいては、利用者数が前年度105人から88人に減少したが、引き続き子どもの養育が一時的に困難になった家庭を支援し、育児負担の軽減を図った。 ○トワイライトステイ事業についても計画どおり実施し、保護者の帰宅が遅い家庭の子どもなどを預かることで、安心して子育てができる環境づくりを行った。 ○母児デイケア事業については利用実績なし。妊産婦を対象としていること、利用者の通所が必要であること等からケースを発掘し、利用につなげることが難しい。 |

評価基準

- 0：事業に着手することができなかった。
 1：大幅な変更や遅れがあり、目標を達成することができなかった。
 2：やや変更はあったが概ね目標を達成することができた。
 3：目標を達成することができた。
 4：目標を超える成果を得ることができた。

《今後の展開》

- トワイライトステイ事業については、年度により利用者数に波があるため、利用状況やニーズを把握しながら今後の事業展開に生かしていく。
- 母児デイケア事業については、母子保健分野等との連携を強化し、ニーズの把握と事業の実施方法の改善を図りながら、継続して実施していく。

《その他意見等》

7 リフレッシュ保育事業

施策の目指す姿

○子どもの一時預かりを行うことで、保護者がリフレッシュできる安心して子育てができる環境づくりを行います。

《取組内容（H29～H33）》

○育児を行う保護者のリフレッシュ等を目的に、子どもを一時的に預かる。
 ・日時：開館日の午前10時～午後5時（4時間／日、8日間／月まで）
 ・対象：1歳～就学前の子ども

《進行管理》

| 区分 | H29 | H30 | H31 | H32 | H33 |
|----|----------------------------|----------------------------|---------------------------|-----|-----|
| 目標 | | 登録者数 500人 利用延べ人数 2,800人 | 登録者数 540人 利用延べ人数 3100人 | | |
| 実績 | 登録者数 479人 利用延べ人数 2,706人 | 登録者数 532人 利用延べ人数 3100人 | | | |

《平成30年度の取組に対する評価》

| 評価 | コメント |
|----|---|
| 4 | ○前年度と比べて、登録者数の増加に伴い利用延べ人数も増加しているが、利用希望に応じてサービス提供を行った。 |

評価基準

- 0：事業に着手することができなかった。
 1：大幅な変更や遅れがあり、目標を達成することができなかった。
 2：やや変更はあったが概ね目標を達成することができた。
 3：目標を達成することができた。
 4：目標を超える成果を得ることができた。

《今後の展開》

【継続】

○他事業所の一時保育の予約が取りづらい状況もあり、待機児童の問題が解消されるまで、現在の利用状況は継続すると考えられる。

《その他意見等》

8 交流ひろば事業

施策の目指す姿

〇0歳から就学前のお子さんを対象とした室内ひろばとして、親子がふれあえる場の提供や親子が楽しく参加できる催しや講座の実施を通じて、子どもと保護者の孤立を防ぎ、子育ての情報交換や相談ができ安心して親子で生活できるようにします。

《取組内容（H29～H33）》

- 〇たち交流ひろば
 ・就学前の子どもと保護者の交流の場。
 ・火・木・土曜日の午前11時にスポットタイムを実施。
- 〇しらとりオープンルーム
 ・地域交流室を開放し、仲間づくり、交流の場の提供。
- 〇しらとりひろば
 ・月～土曜日の午前10時～午後4時に実施。

《進行管理》

| 区分 | H29 | H30 | H31 | H32 | H33 |
|----|--|--|---|-----|-----|
| 目標 | | たち交流ひろば ・登録者数 5800人 ・利用者数 135000人 しらとりオープンルーム ・実施回数 24回 ・利用者数 350組 750人 しらとりひろば ・利用者数 3000組 6500人 | たち交流ひろば ・登録者数 5400人 ・利用者数 130000人 しらとりオープンルーム ・実施回数 24回 ・利用者数 700人 しらとりひろば ・利用者数 4800人 | | |
| 実績 | たち交流ひろば ・登録者数 5670人 ・利用者数 130429人 しらとりオープンルーム ・実施回数 24回 ・参加者数 297組 662人 しらとりひろば ・利用者数 2572組 5931人 | たち交流ひろば ・登録者数 5388人 ・利用者数 129131人 しらとりオープンルーム ・実施回数 24回 ・利用者数 320組 689人 しらとりひろば ・利用者数 2020組 4735人 | | | |

《平成30年度の取組に対する評価》

| 評価 | コメント |
|----|--|
| 2 | 〇各取組について、計画どおり実施したが、たち交流ひろば及びしらとりひろばの利用者数についてはともに減少傾向が続いている。 |

評価基準

- 0：事業に着手することができなかった。
 1：大幅な変更や遅れがあり、目標を達成することができなかった。
 2：やや変更はあったが概ね目標を達成することができた。
 3：目標を達成することができた。
 4：目標を超える成果を得ることができた。

《今後の展開》

- 【継続】
 〇今後開設される地域子育て支援センターと利用者支援地域連携会議等を活用して連携を図っていく。

《その他意見等》

9 ファミリー・サポート・センター事業

施策の目指す姿

○地域の子育て機能を強化し、子育て家庭における仕事と育児を両立しやすい環境を確保すること及び地域における子育て家庭を支援することにより、安心して子育てできる環境の整備に寄与します。

《取組内容（H29～H33）》

○仕事や家庭の都合により育児の助けを求めている方（依頼会員）と、育児を手助けしたい方（提供会員）がお互いに助け合い、子育て中の方を地域で支える会員同士の相互援助活動。

《進行管理》

| 区分 | H29 | H30 | H31 | H32 | H33 |
|----|-------------------------|-------------------------|-------------------------|-----|-----|
| 目標 | | 会員数 2200人 活動件数 4600件 | 会員数 2300人 活動件数 4300件 | | |
| 実績 | 会員数 2190人 活動件数 4595件 | 会員数 2264人 活動件数 4258件 | | | |

《平成30年度の取組に対する評価》

| 評価 | コメント |
|----|---|
| 3 | <p>○広報等による情報発信や、本事業の認知度の上昇により会員数は増加している。特に依頼会員は年々増加していることから、本事業への高いニーズが伺える。</p> <p>○継続的にサービスを利用する会員よりも、単発でのサービス利用を希望する会員が多かったこと等の影響により、会員数の増加に対して、活動件数が減少している。</p> <p>【継続】</p> <p>○提供会員は少ないが、マッチングを工夫し依頼会員のニーズに応じている。</p> |

評価基準

- 0：事業に着手することができなかった。
 1：大幅な変更や遅れがあり、目標を達成することができなかった。
 2：やや変更はあったが概ね目標を達成することができた。
 3：目標を達成することができた。
 4：目標を超える成果を得ることができた。

《今後の展開》

○反復利用者等の減少で活動件数は若干減少しているが、市民からの問合せ等が多く、ニーズが高い事業であるため、提供会員の増加やサービスの充実を図ってきたい。

《その他意見等》